

## 【企業動向調査（製造業）概況】

2025年1月～3月期の企業動向調査（市内製造業94社）を行った結果、業況判断指数D Iは▲9.5ポイントとなりました。

前期調査結果（2024年10月～12月期：1.7ポイント）と比較して11.2ポイント悪化しました。

その他経営上の問題については、「製造スペース不足・仕入れ材料・購入品などの値上げ。若年層の人員不足が深刻（10年先の技術承継が不安）」、「全体的に先行きが不透明で今後の対応策も立て辛い」、「一番は原材料や仕入れ単価の上昇分を取引先に価格反映してもらえないこと」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、前期調査結果と比較して「金属」はプラスポイント、「食品」「木材家具」は0ポイント、「一般機械」「電気機械」「その他業種」はマイナスポイントとなりました。

### 業種別の業況判断前期比D I

食品	▲ 33.3	（前期比：プラスマイナス	0.0）
金属	6.7	（前期比：プラス	28.1）
一般機械	6.6	（前期比：マイナス	16.5）
電気機械	▲ 33.4	（前期比：マイナス	41.6）
木材家具	0.0	（前期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	▲ 20.0	（前期比：マイナス	35.4）

2. 次期予想D I（2025年4月～6月）

次期予想は▲23.9ポイントで、今期調査結果(▲9.5)より、14.4ポイント下回る予想となりました。

### 業種別の次期予想D I

食品	0.0	（今期比：プラス	33.3）
金属	▲ 40.0	（今期比：マイナス	4.3）
一般機械	▲ 33.3	（今期比：マイナス	25.6）
電気機械	▲ 16.7	（今期比：マイナス	8.4）
木材家具	▲ 40.0	（今期比：マイナス	40.0）
その他業種	0.0	（今期比：マイナス	7.7）

3. 経営上の主な問題点

「労働力不足（量的なもの）」が69.8%、「原材料・仕入品単価の上昇」が57.1%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が49.2%、「受注の減少」が44.4%、「技術力の不足」が15.9%、「納期の短縮」が15.9%、「同業他社との競争激化」が14.3%、「製品販売価格の低下」が4.8%、「金融難」が3.2%、「為替相場の変動」が3.2%、「人員過剰」と「取引先の海外シフト化」が0.0%となっております。

# 企業動向調査

【2025年1月～3月期<1期>】

## 【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2025年1月～3月期<1期>の業況について調査した。

## 【調査実施要領】

実施時期 2025年4月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 94社

回答企業数 63社（回答率 67.0%）

## 【調査結果】

自社業況判断（DI=好転-悪化）

前期比：「好転」15.9%（前回19.4%）、「悪化」25.4%（前回17.7%）という割合でDIは▲9.5となり、11.2ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」27.0%（前回17.7%）、「悪化」31.7%（前回30.6%）という割合でDIは▲4.7となり、8.2ポイント好転した。

次期予想：「好転」6.3%、「悪化」30.2%という割合でDIは▲23.9（前回▲12.9）となり、前期より悪化を予想している。

受注引合（DI=増加-減少）

前期比：「増加」20.6%（前回21.0%）、「減少」27.0%（前回22.6%）という割合でDIは▲6.4となり、4.8ポイント減少した。

前年同期比：「増加」28.6%（前回21.0%）、「減少」30.2%（前回37.1%）という割合でDIは▲1.6となり、14.5ポイント増加した。

次期予想：「増加」11.1%、「減少」31.7%という割合でDIは▲20.6（前回▲16.4）となり前期より若干の減少を予想している。

生産量（DI=増加-減少）

前期比：「増加」17.5%（前回16.4%）、「減少」20.6%（前回21.3%）という割合でDIは▲3.1となり、1.8ポイント増加した。

前年同期比：「増加」25.4%（前回19.7%）、「減少」25.4%（前回31.1%）という割合でDIは0.0となり、11.4ポイント増加した。

次期予想：「増加」11.3%、「減少」33.9%という割合でDIは▲22.6（前回▲16.4）となり、前期より減少を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前期比：「低下」3.3% (前回0.0%)、「上昇」38.3% (前回47.5%) という割合でD Iは▲35.0となり、12.5ポイント上昇した。

前年同期比：「低下」3.3% (前回0.0%)、「上昇」58.3% (前回71.2%) という割合でD Iは▲55.0となり、16.2ポイント上昇した。

次期予想：「低下」1.7%、「上昇」45.8%という割合でD Iは▲44.1 (前回▲62.7)となり、前期より原材料・仕入単価の上昇を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」16.1% (前回13.1%)、「低下」1.6% (前回1.6%) という割合でD Iは14.5となり、3ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」32.3% (前回37.7%)、「低下」4.8% (前回6.6%) という割合でD Iは27.5となり、3.6ポイント若干減少した。

次期予想：「上昇」22.6%、「低下」4.8%という割合でD Iは17.8 (前回16.4)となり、前期より製品販売価格の上昇を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」12.7% (前回8.1%)、「悪化」15.9% (前回14.5%) という割合でD Iは▲3.2となり、3.2ポイント好転した。

前年同期比：「好転」14.3% (前回11.3%)、「悪化」19.0% (前回17.7%) という割合でD Iは▲4.7となり、1.7ポイント好転した。

次期予想：「好転」4.8%、「悪化」23.8%という割合でD Iは▲19.0 (前回▲14.6)となり、前期より資金繰りの若干の悪化を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」15.9% (前回11.3%)、「減少」11.1% (前回16.1%) という割合でD Iは4.8となり、9.6ポイント増加した。

前年同期比：「増加」17.5% (前回12.9%)、「減少」15.9% (前回24.2%) という割合でD Iは1.6となり12.9ポイント増加した。

次期予想：「増加」4.8%、「減少」17.5%という割合でD Iは▲12.7 (前回▲12.9)となり前期より労働時間の若干の増加を予想している。

収益率 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」13.1% (前回8.2%)、「低下」23.0% (前回26.2%) という割合でD Iは▲9.9となり、8.1ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」19.4% (前回14.8%)、「低下」30.6% (前回31.1%) という割合でD Iは▲11.2となり、5.1ポイント上昇した。

次期予想：「上昇」4.8%、「低下」40.3%という割合でD Iは▲35.5 (前回▲26.2)となり、前期より収益率の低下を予想している。

## 経営上の問題点（複数回答）

1位	労働力不足（量的なもの）	（↑ 69.8%）
2位	原材料・仕入品単価の上昇	（↓ 57.1%）
3位	人材不足（技術者等質的なもの）	（↓ 49.2%）
4位	受注の減少	（↓ 44.4%）
5位	技術力の不足	（↑ 15.9%）
6位	納期の短縮	（→ 15.9%）
7位	同業他社との競争激化	（→ 14.3%）
8位	製品販売価格の低下	（↑ 4.8%）
9位	金融難	（↑ 3.2%）
10位	為替相場の変動	（→ 3.2%）
11位	人員過剰	（→ 0.0%）
11位	取引先の海外シフト化	（↓ 0.0%）

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし  
「↓」 前回の順位から下降

## 業種別自社業況判断／食品

前期比：「好転」0.0%（前回0.0%）、「悪化」33.3%（前回33.3%）という割合でD Iは▲33.3となり、前年同期と変わらない。

前年同期比：「好転」16.7%（前回16.7%）、「悪化」33.3%（前回50.0%）という割合でD Iは▲16.6となり、16.7ポイント好転した。

次期予想：「好転」16.7%、「悪化」16.7%という割合でD Iは0.0（前回▲33.3）となり、前期より好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「好転」26.7%（前回0.0%）、「悪化」20.0%（前回21.4%）という割合でD Iは6.7となり28.1ポイント好転した。

前年同期比：「好転」46.7%（前回7.1%）、「悪化」33.3%（前回35.7%）という割合でD Iは13.4となり、42ポイント好転した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」40.0%という割合でD Iは▲40.0（前回▲35.7）となり、前期より悪化を予想している。

## 業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「好転」13.3%（前回23.1%）、「悪化」6.7%（前回0.0%）という割合でD Iは6.6となり、16.5ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」20.0%（前回15.4%）、「悪化」20.0%（前回23.1%）という割合でD Iは0.0となり、7.7ポイント好転した。

次期予想：「好転」6.7%、「悪化」40.0%という割合でD Iは▲33.3（前回▲7.7）となり、前期より悪化を予想している。

## 業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「好転」8.3%（前回25.0%）、「悪化」41.7%（前回16.7%）という割合でDIは▲33.4となり、41.6ポイント大幅に悪化した。

前年同期比：「好転」16.7%（前回16.7%）、「悪化」33.3%（前回33.3%）という割合でDIは▲16.6となり、前年同期と変わらない。

次期予想：「好転」8.3%、「悪化」25.0%という割合でDIは▲16.7（前回▲8.3）となり、前期より悪化と予想している。

#### 業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「好転」20.0%（前回25.0%）、「悪化」20.0%（前回25.0%）という割合でDIは0.0となり、前年同期と変わらない。

前年同期比：「好転」40.0%（前回0.0%）、「悪化」20.0%（前回50.0%）という割合でDIは20.0となり、70ポイント大幅に好転した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」40.0%という割合でDIは▲40.0（前回0.0）となり、前期より大幅な悪化を予想している。

Q10 日銀松本支店が4月1日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数は（DI）は、前回調査（12月）と比較して、1ポイントプラスとなりました。製造業は、マイナス9ポイントと5ポイント好転し、非製造業は、プラス14ポイントと横ばいでした。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」9.5%、「今はないが、今後好転が見込まれる」6.3%、「変わらない」42.9%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」25.4%、「悪化している」15.9%。

Q11 4月2日に米国トランプ大統領が発表した相互関税（日本及び自動車への追加関税（25%））について、貴社の事業に影響出ると予想されますでしょうか。

A 「既に影響が出ている」9.5%、「90日間の停止後に大きな影響が見込まれる」0%、「90日間の停止後に影響が見込まれる」33.3%、「影響は無い」17.5%、「わからない」39.7%

Q12 問11にて「既に影響が出ている」または「90日間の停止後に大きな影響が見込まれる」とお答えなられた方、想定される影響について、具体的にご記入ください。

A 「自動車関連の仕事がストップしています」「受注量の減少がすでに出ている」「アメリカ向け製品の見合わせが出た」「受注量減少」「新規案件がストップ。国内生産の見直しによる受注減少」「材料価格の変動」「取引先からの受注減少」「自動車生産減少の場合、売上減少の可能性」

Q13 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「製造スペース不足・仕入れ材料・購入品などの値上げ。若年層の人員不足が深刻(10年先の技術承継が不安)」「全体的に先行きが不透明で今後の対応策も立て辛い」「一番は原材料や仕入れ単価の上昇分を取引先に価格反映してもらえないこと」「販路拡大、社員教育など多岐に渡り問題があります。こつこつ改善していますが、外的要因により苦戦しています。マインドが下がらないように頑張ります」「老朽化の為、工場移転したいが、そこまでの資金が確保できない」「異業種への参入を目指し、人材確保や研究資金の不足」「半導体業界がなかなか好転してこない」「人材獲得ができなく残業が増え収益率が悪化している。大手人材会社は成功報酬30%/年収をとるため小零細企業は費用的に厳しい」「トランプ関税について、自社に直接の影響は無いが、中国子会社の米国向け製品への影響が強く懸念される。生産場所を他国へ移すにしても短期間で出来ることではないので、グループ全体への影響は大きい」「取引先の後継者不足、高齢化による廃業」「人手不足」「今年も春闘などで賃金上昇の傾向が景気よく出ているが、この際海外への輸出向けが経済混乱で見通せない中で、受注の減少がすでに出てきている。原材料高騰も高止まりで、今後中小企業が減収・減益の広がりが見込まれる。そろそろ中小企業が大苦行に陥っている現実を政府はしっかりと見てもらい、企業を守る方針に舵を切らねば、倒産件数は右肩上がりに上昇し、日本を下支えした中小企業が崩壊するであろうと考えます」「後継者への承継問題」「採用条件が他社と比べて給与(初任給)では差があり、採用が難しい」「経営改善に取り組んだ。今後も受注が安定するか不安がある」等









## 【 企業 動 向 調 査 （ 製 造 業 ） 概 況 】

2025 年 4 月～ 6 月 期 の 企 業 動 向 調 査 （ 市 内 製 造 業 96 社 ） を 行 っ た 結 果 、 業 況 判 断 指 数 D I は 1.7 ポイントとなりました。

前 期 調 査 結 果 （ 2025 年 1 月～ 3 月 期 ： ▲ 9.5 ポイント ） と 比 較 し て 11.2 ポイント好転しました。

そ の 他 経 営 上 の 問 題 に つ い て は 、 「 人 材 不 足 」 、 「 原 材 料 や 部 材 の 高 騰 」 「 業 績 が 上 向 か ず 従 業 員 の 待 遇 改 善 が 遅 れ て い る 」 な ど の 意 見 が あ り ま し た 。

1. 今 期 調 査 結 果 は 、 「 食 品 」 、 「 一 般 機 械 」 、 「 電 気 機 械 」 、 「 そ の 他 業 種 」 は プ ラ ス ポ イ ン ト 、 「 木 材 家 具 」 、 「 金 属 」 は マ イ ナ ス ポ イ ン ト と な り ま し た 。

### 業 種 別 の 業 況 判 断 前 期 比 D I

食 品	20.0	（ 前 期 比 ： プ ラ ス	53.3）
金 属	▲7.2	（ 前 期 比 ： マ イ ナ ス	13.9）
一 般 機 械	7.1	（ 前 期 比 ： プ ラ ス	0.5）
電 気 機 械	16.7	（ 前 期 比 ： プ ラ ス	50.1）
木 材 家 具	▲20.0	（ 前 期 比 ： マ イ ナ ス	20.0）
そ の 他 業 種	▲11.1	（ 前 期 比 ： プ ラ ス	8.9）

2. 次 期 予 想 D I （ 2025 年 7 月～ 9 月 ）

次 期 予 想 は ▲ 15.5 ポイントで、今 期 調 査 結 果 (1.7) より、17.2 ポイント下回る予想となりました。

### 業 種 別 の 次 期 予 想 D I

食 品	0.0	（ 今 期 比 ： プ ラ ス	3.3）
金 属	▲21.4	（ 今 期 比 ： マ イ ナ ス	18.6）
一 般 機 械	▲21.5	（ 今 期 比 ： マ イ ナ ス	11.8）
電 気 機 械	▲9.1	（ 今 期 比 ： マ イ ナ ス	7.6）
木 材 家 具	▲20.0	（ 今 期 比 ： プ ラ ス	20.0）
そ の 他 業 種	▲11.1	（ 今 期 比 ： マ イ ナ ス	11.1）

3. 経 営 上 の 主 な 問 題 点

「 人 材 不 足 （ 技 術 者 等 質 的 な も の ） 」 が 52.5%、 「 原 材 料 ・ 仕 入 品 単 価 の 上 昇 」 が 35.6%、 「 受 注 の 減 少 」 が 32.2%、 「 労 働 力 不 足 （ 量 的 な も の ） 」 が 30.5%、 「 技 術 力 の 不 足 」 が 22.0%、 「 同 業 他 社 と の 競 争 激 化 」 が 20.3% 「 納 期 の 短 縮 」 が 16.9%、 「 製 品 販 売 価 格 の 低 下 」 が 5.1%、 「 金 融 難 」 が 3.4%、 「 為 替 相 場 の 変 動 」 が 3.4%、 「 人 員 過 剰 」 が 1.7%、 「 取 引 先 の 海 外 シ フ ト 化 」 が 0.0% と な っ て お り ま す 。

# 企業動向調査

【2025年4月～6月期<2期>】

## 【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2025年4月～6月期<2期>の業況について調査した。

## 【調査実施要領】

実施時期 2025年7月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 96社（前回+2社）

回答企業数 59社（回答率 61.5%）

## 【調査結果】

自社業況判断（DI=好転-悪化）

前期比：「好転」23.7%（前回15.9%）、「悪化」22.0%（前回25.4%）という割合でDIは1.7となり、11.2ポイント好転した。

前年同期比：「好転」27.6%（前回27.0%）、「悪化」24.1%（前回31.7%）という割合でDIは3.5となり、8.2ポイント好転した。

次期予想：「好転」8.6%、「悪化」24.1%という割合でDIは▲15.5（前回▲23.9）となり、前期より好転を予想している。

受注引合（DI=増加-減少）

前期比：「増加」24.1%（前回20.6%）、「減少」19.0%（前回27.0%）という割合でDIは5.1となり、11.5ポイント増加した。

前年同期比：「増加」31.0%（前回28.6%）、「減少」24.1%（前回30.2%）という割合でDIは6.9となり、8.5ポイント増加した。

次期予想：「増加」8.6%、「減少」22.4%という割合でDIは▲13.8（前回▲20.6）となり前期より増加を予想している。

生産量（DI=増加-減少）

前期比：「増加」30.5%（前回17.5%）、「減少」20.3%（前回20.6%）という割合でDIは10.2となり、13.3ポイント増加した。

前年同期比：「増加」32.8%（前回25.4%）、「減少」24.1%（前回25.4%）という割合でDIは8.7となり、8.7ポイント減少した。

次期予想：「増加」8.6%、「減少」22.4%という割合でDIは▲13.8（前回▲22.6）となり、前期より増加を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前 期 比：「低下」1.8% (前回 3.3%)、「上昇」30.4% (前回 38.3%) という割合で D I は▲ 28.6 となり、6.4 ポイント低下した。

前年同期比：「低下」3.6% (前回 3.3%)、「上昇」49.1% (前回 58.3%) という割合で D I は▲ 45.5 となり、9.5 ポイント低下した。

次 期 予 想：「低下」0.0%、「上昇」32.7% という割合で D I は▲ 32.7 (前回▲ 44.1) となり、前期より原材料・仕入単価の低下を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」6.9% (前回 16.1%)、「低下」1.7% (前回 1.6%) という割合で D I は 5.2 となり、9.3 ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」28.1% (前回 32.3%)、「低下」3.5% (前回 4.8%) という割合で D I は 24.6 となり、2.9 ポイント低下した。

次 期 予 想：「上昇」15.8%、「低下」3.5% という割合で D I は 12.3 (前回 17.8) となり、前期より製品販売価格の低下を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前 期 比：「好転」6.8% (前回 12.7%)、「悪化」15.3% (前回 15.9%) という割合で D I は▲ 8.5 となり、5.3 ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」12.1% (前回 14.3%)、「悪化」17.2% (前回 19.0%) という割合で D I は▲ 5.1 となり、0.4 ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」3.5%、「悪化」12.3% という割合で D I は▲ 8.8 (前回▲ 19.0) となり、前期より資金繰りの好転を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前 期 比：「増加」18.6% (前回 15.9%)、「減少」15.3% (前回 11.1%) という割合で D I は 3.3 となり、1.5 ポイント減少した。

前年同期比：「増加」17.2% (前回 17.5%)、「減少」17.2% (前回 15.9%) という割合で D I は 0.0 となり 1.6 ポイント減少した。

次 期 予 想：「増加」12.1%、「減少」20.7% という割合で D I は▲ 8.6 (前回▲ 12.7) となり前期より労働時間の増加を予想している。

収 益 率 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」13.8% (前回 13.1%)、「低下」20.7% (前回 23.0%) という割合で D I は▲ 6.9 となり、3 ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」28.1% (前回 19.4%)、「低下」22.8% (前回 30.6%) という割合で D I は 5.3 となり、16.5 ポイント上昇した。

次 期 予 想：「上昇」12.5%、「低下」25.0% という割合で D I は▲ 12.5 (前回▲ 35.5) となり、前期より収益率の増加を予想している。

## 経営上の問題点（複数回答）

1位	人材不足（技術者等質的なもの）	（↑ 52.5%）
2位	原材料・仕入品単価の上	（→ 35.6%）
3位	受注の減少	（↑ 32.2%）
4位	労働力不足（量的なもの）	（↓ 30.5%）
5位	技術力の不足	（→ 22.0%）
6位	同業他社との競争激化	（↑ 20.3%）
7位	納期の短縮	（↓ 16.9%）
8位	製品販売価格の低下	（→ 5.1%）
9位	金融難	（→ 3.4%）
10位	為替相場の変動	（→ 3.4%）
11位	人員過剰	（↑ 1.7%）
12位	取引先の海外シフト化	（→ 0.0%）

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし  
「↓」 前回の順位から下降

## 業種別自社業況判断／食品

前期比：「好転」20.0%（前回0.0%）、「悪化」0.0%（前回33.3%）という割合でD Iは20.0となり、53.3ポイント好転した。

前年同期比：「好転」20.0%（前回16.7%）、「悪化」20.0%（前回33.3%）という割合でD Iは0.0となり、16.6ポイント好転した。

次期予想：「好転」20.0%、「悪化」20.0%という割合でD Iは0.0（前回0.0）となり前期より若干の好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「好転」21.4%（前回26.7%）、「悪化」28.6%（前回20.0%）という割合でD Iは▲7.2となり13.9ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」28.6%（前回46.7%）、「悪化」28.6%（前回33.3%）という割合でD Iは0.0となり、13.4ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」21.4%という割合でD Iは▲21.4（前回▲40.0）となり、前期より好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「好転」21.4%（前回13.3%）、「悪化」14.3%（前回6.7%）という割合でD Iは7.1となり、0.5ポイント好転した。

前年同期比：「好転」28.6%（前回20.0%）、「悪化」14.3%（前回20.0%）という割合でD Iは14.3となり、14.3ポイント好転した。

次期予想：「好転」21.4%、「悪化」42.9%という割合でD Iは▲21.5（前回▲33.3）となり、前期より好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「好転」33.3%（前回8.3%）、「悪化」16.7%（前回41.7%）という割合でDIは16.7となり、50.1ポイント好転した。

前年同期比：「好転」36.4%（前回16.7%）、「悪化」27.3%（前回33.3%）という割合でDIは9.1となり、25.7ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」9.1%という割合でDIは▲9.1（前回▲16.7）となり、前期より好転と予想している。

## 業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「好転」20.0%（前回20.0%）、「悪化」40.0%（前回20.0%）という割合でDIは▲20.0となり、20.0ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」20.0%（前回40.0%）、「悪化」20.0%（前回20.0%）という割合でDIは0.0となり、20.0ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」20.0%という割合でDIは▲20.0（前回▲40.0）となり、前期より好転を予想している。

Q10 日銀松本支店が7月1日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数は（DI）は、前回調査（4月）と比較して、2ポイントプラスとなりました。製造業は、マイナス9ポイントと横ばい、非製造業は、プラス15ポイントと1割好転しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」3.4%、「今はないが、今後好転が見込まれる」11.9%、「変わらない」49.2%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」22.0%、「悪化している」13.6%。

Q11 採用活動や販売促進、情報収集を目的として、SNSやYouTubeなどのデジタルツールを活用されていますでしょうか。活用されている場合は、そのツールをお答えください。（複数回答可）

A 「Facebook（フェイスブック）」11.9%、「Instagram（インスタグラム）」10.2%、「X（エックス：旧ツイッター）」5.1%、「YouTube（ユーチューブ）」11.9%、「ホームページ」61.0%、「活用していない」25.4%、「その他」1.7%（内訳：リスティング広告、等）。

Q12 デジタルツールを活用されている場合、その目的をお答えください。（複数回答可）

A 「採用活動」35.6%、「認知拡大」47.5%、「販売促進（顧客獲得）」37.3%、「企業や製品のブランディング」18.6%、「顧客とのコミュニケーション」16.9%、「情報収集」8.5%

Q13 デジタルツールを活用されている場合、最も効果があると感じるツールをお答えください。(複数回答可)

A 「Facebook (フェイスブック)」0.0%、「Instagram (インスタグラム)」10.2%、「X (エックス:旧ツイッター)」1.7%、「YouTube (ユーチューブ)」11.9%、「ホームページ」30.5%、「あまり効果的だと思わない」10.2%、「分からない」18.6%

Q14 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「人件費の高騰で利益が減少している」

「業績が上向かず従業員の待遇改善がおくれている。待遇改善によるモチベーションアップによる業績改善か、業績改善してからの待遇改善か、悩ましい」

「業務を引き継ぎたいが、パワハラ的な指導の為 教えられる側が付いていけず挫折し、事業継承が滞っている」

「製造業に関して、原材料や部材の高騰にかなりの影響があります。お客様から値上がった分を直ぐに請求できず、数か月間の交渉を経て少しでも値上げてもらえればというのが現状、交渉中の数か月間は大赤字生産となってしまふ。また、賃金アップや社会保険、厚生年金の加入など小企業には対応できない。」

「全く経済状況が読めない。与党大敗で経済停滞が長引かなければ良い」

「賃上げについて、大手との収益差を考えると同様の引き上げは難しく疲弊感漂う」

「とにかく異常気象で気温上昇が予想を上回り、対策が追い付かず、就労時間を短くしている。事業継続のために冷房設備構築の助成金など公的な支援が不可欠な状況下である。

「原材料と仕入単価上昇分の取引先価格反映。設備の入れ替えなどがかさなり設備投資の増大」

「トランプ関税の影響か、ここの所の受注減少は痛手。とりあえずの決着は見たが、予断を許さない状況は変わらない」

「人手不足」

「コロナ融資の返済」

「納期の集中があつて、生産が重なり、効率が悪くなる可能性がある」

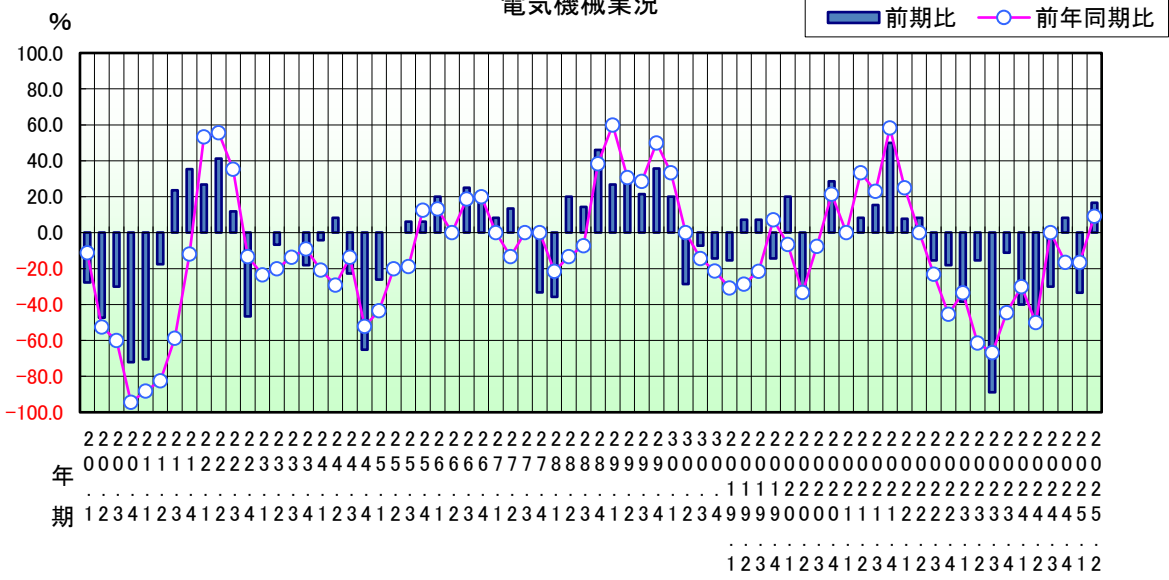








電氣機械業況



## 【 企業動向調査（製造業）概況 】

2025年7月～9月期の企業動向調査（市内製造業96社）を行った結果、業況判断指数D Iは3.4ポイントとなりました。

前期調査結果（2025年4月～6月期：1.7ポイント）と比較して1.7ポイント好転しました。

その他経営上の問題については、「仕入や賃金の上昇が先行し利益確保が難しい。」、「期待する人材確保が進まず、採用施策そのものを見直している。」、「トランプ関税の影響で先々の不透明感が強い状況で心配である。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「食品」、「電気機械」、「その他業種」はプラスポイント、「金属」「木材家具」は0ポイント、「一般機械」はマイナスポイントとなりました。

### 業種別の業況判断前期比D I

食品	25.0	（前期比：プラス	5.0）
金属	0.0	（前期比：プラス	7.2）
一般機械	▲21.4	（前期比：マイナス	28.5）
電気機械	20.0	（前期比：プラス	3.3）
木材家具	0.0	（前期比：プラス	20.0）
その他業種	18.2	（前期比：プラス	29.3）

2. 次期予想D I（2026年1月～3月）

次期予想の平均は▲10.0ポイントで、今期調査結果の平均(3.4)より、13.4ポイント下回る予想となりました。

### 業種別の次期予想D I

食品	▲25.0	（今期比：プラスマイナス	0.0）
金属	▲18.7	（今期比：マイナス	18.7）
一般機械	0.0	（今期比：プラス	21.4）
電気機械	▲20.0	（今期比：マイナス	40.0）
木材家具	0.0	（今期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	0.0	（今期比：マイナス	18.2）

3. 経営上の主な問題点

「人材不足（技術者等質的なもの）」が50.0%、「原材料・仕入品単価の上昇」が50.0%、「受注の減少」が35.0%、「労働力不足（量的なもの）」が30.0%、「技術力の不足」が23.3%、「納期の短縮」が20.0%「同業他社との競争激化」が13.3%、「為替相場の変動」が6.7%、「製品販売価格の低下」が5.0%、「金融難」が5.0%、「取引先の海外シフト化」が3.3%、「人員過剰」が0.0%となっております。

## 【 企業動向調査（製造業）概況 】

2025年7月～9月期の企業動向調査（市内製造業96社）を行った結果、業況判断指数D Iは3.4ポイントとなりました。

前期調査結果（2025年4月～6月期：1.7ポイント）と比較して1.7ポイント好転しました。

その他経営上の問題については、「仕入や賃金の上昇が先行し利益確保が難しい。」、「期待する人材確保が進まず、採用施策そのものを見直している。」、「トランプ関税の影響で先々の不透明感が強い状況で心配である。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「食品」、「電気機械」、「その他業種」はプラスポイント、「金属」「木材家具」は0ポイント、「一般機械」はマイナスポイントとなりました。

### 業種別の業況判断前期比D I

食品	25.0	（前期比：プラス	5.0）
金属	0.0	（前期比：プラス	7.2）
一般機械	▲21.4	（前期比：マイナス	28.5）
電気機械	20.0	（前期比：プラス	3.3）
木材家具	0.0	（前期比：プラス	20.0）
その他業種	18.2	（前期比：プラス	29.3）

2. 次期予想D I（2026年1月～3月）

次期予想の平均は▲10.0ポイントで、今期調査結果の平均(3.4)より、13.4ポイント下回る予想となりました。

### 業種別の次期予想D I

食品	▲25.0	（今期比：プラスマイナス	0.0）
金属	▲18.7	（今期比：マイナス	18.7）
一般機械	0.0	（今期比：プラス	21.4）
電気機械	▲20.0	（今期比：マイナス	40.0）
木材家具	0.0	（今期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	0.0	（今期比：マイナス	18.2）

3. 経営上の主な問題点

「人材不足（技術者等質的なもの）」が50.0%、「原材料・仕入品単価の上昇」が50.0%、「受注の減少」が35.0%、「労働力不足（量的なもの）」が30.0%、「技術力の不足」が23.3%、「納期の短縮」が20.0%「同業他社との競争激化」が13.3%、「為替相場の変動」が6.7%、「製品販売価格の低下」が5.0%、「金融難」が5.0%、「取引先の海外シフト化」が3.3%、「人員過剰」が0.0%となっております。

# 企業動向調査

【2025年7月～9月期 <3期>】

## 【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2025年7月～9月期<3期>の業況について調査した。

## 【調査実施要領】

実施時期 2025年10月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 96社

回答企業数 60社（回答率 62.5%）

## 【調査結果】

自社業況判断（DI=好転-悪化）

前期比：「好転」21.7%（前回23.7%）、「悪化」18.3%（前回22.0%）という割合でDIは3.4となり、1.7ポイント好転した。

前年同期比：「好転」26.7%（前回27.6%）、「悪化」20.0%（前回24.1%）という割合でDIは6.7となり、3.2ポイント好転した。

次期予想：「好転」10.0%、「悪化」20.0%という割合でDIは▲10.0（前回▲15.5）となり、前期より好転を予想している。

受注引合（DI=増加-減少）

前期比：「増加」16.7%（前回24.1%）、「減少」21.7%（前回19.0%）という割合でDIは▲5.0となり、10.1ポイント減少した。

前年同期比：「増加」20.0%（前回31.0%）、「減少」28.3%（前回24.1%）という割合でDIは▲8.3となり、15.2ポイント減少した。

次期予想：「増加」10.0%、「減少」23.3%という割合でDIは▲13.3（前回▲13.8）となり前期より好転を予想している。

生産量（DI=増加-減少）

前期比：「増加」18.3%（前回30.5%）、「減少」18.3%（前回20.3%）という割合でDIは0.0となり、10.2ポイント減少した。

前年同期比：「増加」21.7%（前回32.8%）、「減少」23.3%（前回24.1%）という割合でDIは▲1.7となり、10.4ポイント減少した。

次期予想：「増加」13.3%、「減少」21.7%という割合でDIは▲8.4（前回▲13.8）となり、前期より好転を予想している。

#### 原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前 期 比：「低下」0.0% (前回 1.8%)、「上昇」32.8% (前回 30.4%) という割合で D I は▲ 32.8 となり、4.2 ポイント低下した。

前年同期比：「低下」1.7% (前回 3.6%)、「上昇」53.4% (前回 49.1%) という割合で D I は▲ 51.7 となり、6.2 ポイント低下した。

次 期 予 想：「低下」0.0%、「上昇」43.1% という割合で D I は▲ 43.1 (前回▲ 32.7) となり、前期より原材料・仕入単価の低下を予想している。

#### 製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」11.9% (前回 6.9%)、「低下」3.4% (前回 1.7%) という割合で D I は 8.5 となり、3.3 ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」23.7% (前回 28.1%)、「低下」3.4% (前回 3.5%) という割合で D I は 20.3 となり、4.3 ポイント低下した。

次 期 予 想：「上昇」11.9%、「低下」6.8% という割合で D I は 5.1 (前回 12.3) となり、前期より製品販売価格の低下を予想している。

#### 資金繰り (D I = 好転－悪化)

前 期 比：「好転」3.3% (前回 6.8%)、「悪化」16.7% (前回 15.3%) という割合で D I は▲ 13.4 となり、4.9 ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」8.3% (前回 12.1%)、「悪化」16.7% (前回 17.2%) という割合で D I は▲ 8.4 となり、3.3 ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」1.7%、「悪化」16.7% という割合で D I は▲ 15.0 (前回▲ 8.8) となり、前期より資金繰りの悪化を予想している。

#### 所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前 期 比：「増加」13.3% (前回 18.6%)、「減少」13.3% (前回 15.3%) という割合で D I は 0.0 となり、3.3 ポイント減少した。

前年同期比：「増加」15.0% (前回 17.2%)、「減少」13.3% (前回 17.2%) という割合で D I は 1.7 となり 1.7 ポイント増加した。

次 期 予 想：「増加」11.7%、「減少」8.3% という割合で D I は 3.4 (前回▲ 8.6) となり前期より労働時間の増加を予想している。

#### 収 益 率 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」10.0% (前回 13.8%)、「低下」20.0% (前回 20.7%) という割合で D I は▲ 10.0 となり、3.1 ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」11.7% (前回 28.1%)、「低下」28.3% (前回 22.8%) という割合で D I は▲ 16.6 となり、21.9 ポイント低下した。

次 期 予 想：「上昇」6.7%、「低下」26.7% という割合で D I は▲ 20.0 (前回▲ 12.5) となり、前期より収益率の低下を予想している。

## 経営上の問題点（複数回答）

1位	人材不足（技術者等質的なもの）	（→ 50.0%）
2位	原材料・仕入品単価の上昇	（→ 50.0%）
3位	受注の減少	（→ 35.0%）
4位	労働力不足（量的なもの）	（→ 30.0%）
5位	技術力の不足	（→ 23.3%）
6位	納期の短縮	（↑ 20.0%）
7位	同業他社との競争激化	（↓ 13.3%）
8位	為替相場の変動	（↑ 6.7%）
9位	製品販売価格の低下	（↑ 5.0%）
10位	金融難	（↓ 5.0%）
11位	取引先の海外シフト化	（↓ 3.3%）
11位	人員過剰	（→ 0.0%）

※ 「↑」前回の順位から上昇 「→」前回の順位から変動なし  
「↓」前回の順位から下降

## 業種別自社業況判断／食品

前期比：「**好転**」25.0%（前回20.0%）、「**悪化**」0.0%（前回0.0%）という割合でD Iは25.0となり、5.0ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」25.0%（前回20.0%）、「**悪化**」0.0%（前回20.0%）という割合でD Iは25.0となり、25.0ポイント好転した。

次期予想：「**好転**」0.0%、「**悪化**」25.0%という割合でD Iは▲25.0（前回0.0）となり前期より悪化を予想している。

## 業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「**好転**」12.5%（前回21.4%）、「**悪化**」12.5%（前回28.6%）という割合でD Iは0.0となり14.3ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」25.0%（前回28.6%）、「**悪化**」25.0%（前回28.6%）という割合でD Iは0.0となり、前回と変わらない。

次期予想：「**好転**」6.3%、「**悪化**」25.0%という割合でD Iは▲18.7（前回▲21.4）となり、前期より好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「**好転**」0.0%（前回21.4%）、「**悪化**」21.4%（前回14.3%）という割合でD Iは▲21.4となり、14.2ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」14.3%（前回28.6%）、「**悪化**」14.3%（前回14.3%）という割合でD Iは0.0となり、14.3ポイント悪化した。

次期予想：「**好転**」14.3%、「**悪化**」14.3%という割合でD Iは0.0（前回▲21.5）となり、前期より好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「好転」40.0%（前回33.3%）、「悪化」20.0%（前回16.7%）という割合でDIは20.0となり、3.3ポイント好転した。

前年同期比：「好転」50.0%（前回36.4%）、「悪化」20.0%（前回27.3%）という割合でDIは30.0となり、20.9ポイント好転した。

次期予想：「好転」10.0%、「悪化」30.0%という割合でDIは▲20.0（前回▲9.1）となり、前期より悪化と予想している。

## 業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「好転」40.0%（前回20.0%）、「悪化」40.0%（前回40.0%）という割合でDIは0.0となり、20.0ポイント好転した。

前年同期比：「好転」0.0%（前回20.0%）、「悪化」40.0%（前回20.0%）という割合でDIは▲40.0となり、40.0ポイント大幅に悪化した。

次期予想：「好転」20.0%、「悪化」20.0%という割合でDIは0.0（前回▲20.0）となり、前期より好転を予想している。

Q10 日銀松本支店が10月1日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数は（DI）は、前回調査（7月）と比較して、1ポイントマイナスとなりました。製造業は、マイナス9ポイントと横ばい、非製造業は、プラス13ポイントと2ポイント悪化しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」8.3%、「今はないが、今後好転が見込まれる」8.3%、「変わらない」55.0%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」20.0%、「悪化している」8.3%。

Q11 2026年度に向けた採用の計画、希望はありますか。ある場合、現時点での採用状況を教えてください。（新卒、中途含む）

A 「概ね予定通り進んでいる」16.7%、「応募者はいるが期待する人材が見つからない。」10.0%「応募者が少なく採用に繋がらない。」30.0%、「採用を予定していない。」40.0%、「その他」1.7%（内訳：欠員が出たときに募集する）。

Q12 外国の方を雇用されていますか。雇用されている場合、現在就業されている外国の方の人数を教えてください。

A 「雇用していない」60.0%、「雇用したいが現時点で就業者はいない。」1.7%、「1～10人」28.3%、「10人以上」5.0%。

Q13 外国の方を採用されている場合、課題となる点がありましたら教えてください。

A 「コミュニケーションの不足」25.0%、「お互いの文化に対する理解」6.7%、「技術不足」6.7%、「その他」5.0%（内訳：数年で帰国してしまう、外国人側の問題だけでなく、受け入れる日本人側のグローバル能力の向上に課題スポットを充てるべき）

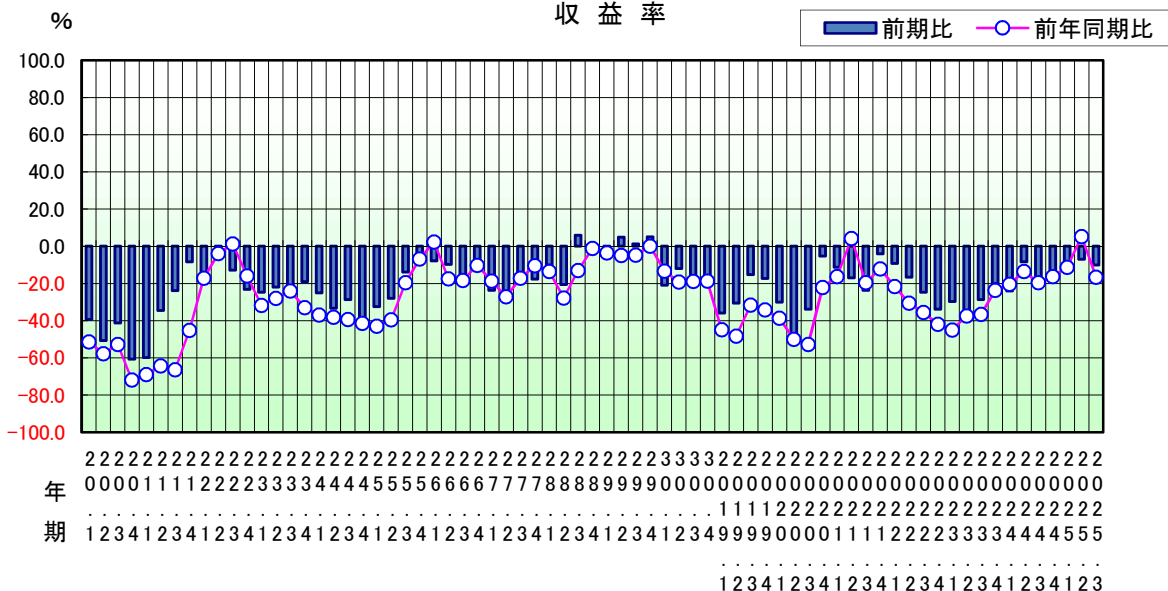
Q14 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「雇用を増やしたいが近隣の駐車場確保（土地取得）が難しく、バスは須坂屋代線の本数が少なく物理的に増やせない状況が続いている。」  
「新規案件の見積もり依頼が増えてきているが実際に決まる案件がほとんどなく、見積りに時間を費やしているだけで売上につながらず困っている。」  
「厳しい状況が続いています。やれることをしっかりやって、仕事ができるのを待つのみです。」  
「同業の廃業等により転注があり人手がかかる仕事が増え人手不足である。」  
「第3期も第2期同様に設備の故障修繕費の増大に資金がかかっております。」  
「受注が不安定、見守るのみ。」  
「トランプ関税の影響で先々の不透明感が強い状況で心配である。」  
「仕入や賃金の上昇が先行し利益確保が難しい。値上げは認められるが、その分生産量は減っている。」  
「パートさんが多く週20時間、103万円の壁など問題を抱えております。最近では会社の指示ではなく旦那さんに言われたなど自分で時間調整をする始末、大変困っております。国もそういう状況を分かってほしい。」  
「ベトナム現地法人から技能実習生を受け入れているが、円安により収入面の魅力が失われている為、希望者が大幅に減少しているため今後の現地への技術・技能の移転に不安がある。」  
「期待する人材確保が進まず、採用施策そのものを見直している。」  
「昨年より売り上げは減少。10月から材料費の値上げ率、個数多く、厳しい状況もセット品販売で利益確保を検証中。」  
「物価高（原材料・仕入品含む）に加え、ここのところは受注も減少しており、資金繰りが悪化した。今後の製造業の盛り上がり期待して、受注が増えてくれるのを強く望みたい。」

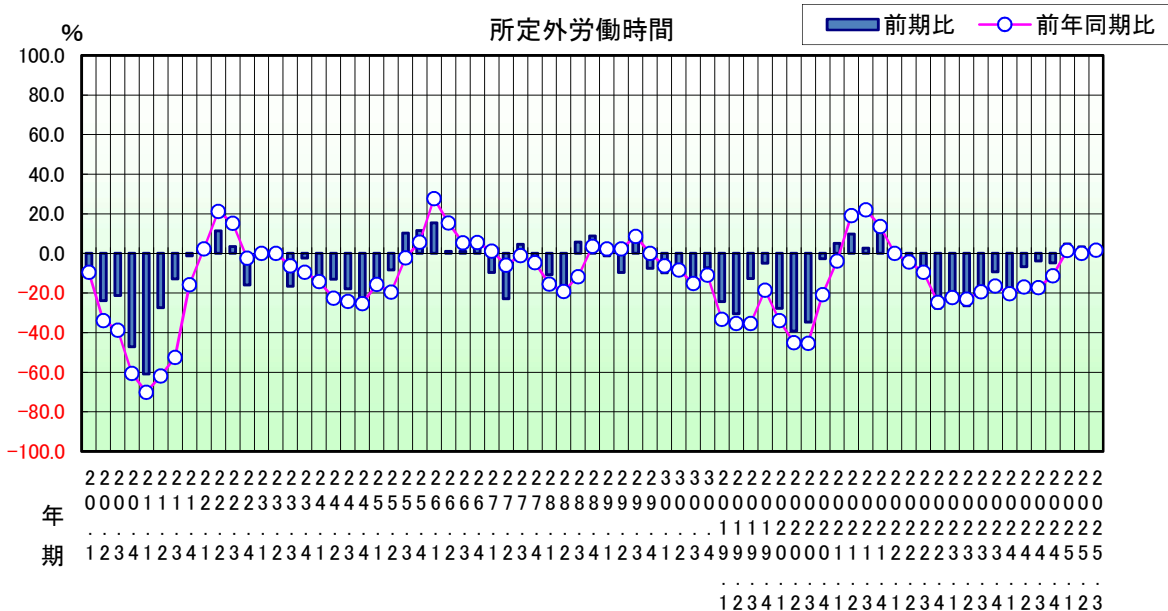




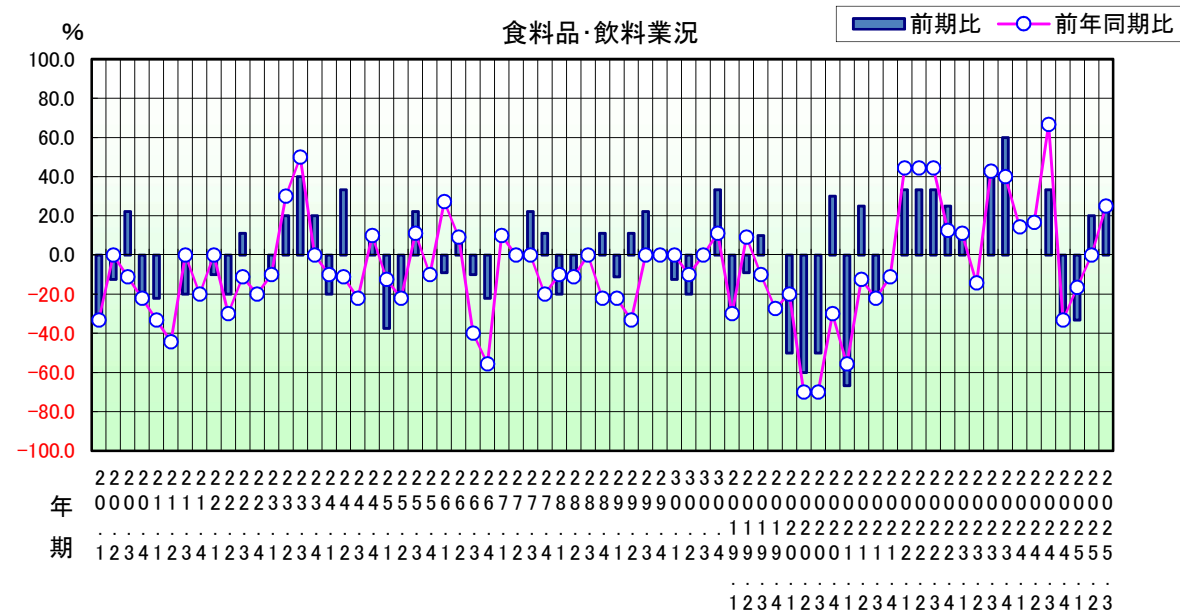
### 収 益 率



### 所定外労働時間



### 食 料 品 ・ 飲 料 業 況





# 企業動向調査

【2025年7月～9月期 <3期>】

## 【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2025年7月～9月期<3期>の業況について調査した。

## 【調査実施要領】

実施時期 2025年10月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 96社

回答企業数 60社（回答率 62.5%）

## 【調査結果】

自社業況判断（DI=好転-悪化）

前期比：「好転」21.7%（前回23.7%）、「悪化」18.3%（前回22.0%）という割合でDIは3.4となり、1.7ポイント好転した。

前年同期比：「好転」26.7%（前回27.6%）、「悪化」20.0%（前回24.1%）という割合でDIは6.7となり、3.2ポイント好転した。

次期予想：「好転」10.0%、「悪化」20.0%という割合でDIは▲10.0（前回▲15.5）となり、前期より好転を予想している。

受注引合（DI=増加-減少）

前期比：「増加」16.7%（前回24.1%）、「減少」21.7%（前回19.0%）という割合でDIは▲5.0となり、10.1ポイント減少した。

前年同期比：「増加」20.0%（前回31.0%）、「減少」28.3%（前回24.1%）という割合でDIは▲8.3となり、15.2ポイント減少した。

次期予想：「増加」10.0%、「減少」23.3%という割合でDIは▲13.3（前回▲13.8）となり前期より好転を予想している。

生産量（DI=増加-減少）

前期比：「増加」18.3%（前回30.5%）、「減少」18.3%（前回20.3%）という割合でDIは0.0となり、10.2ポイント減少した。

前年同期比：「増加」21.7%（前回32.8%）、「減少」23.3%（前回24.1%）という割合でDIは▲1.7となり、10.4ポイント減少した。

次期予想：「増加」13.3%、「減少」21.7%という割合でDIは▲8.4（前回▲13.8）となり、前期より好転を予想している。

#### 原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前 期 比：「低下」0.0% (前回 1.8%)、「上昇」32.8% (前回 30.4%) という割合で D I は▲ 32.8 となり、4.2 ポイント低下した。

前年同期比：「低下」1.7% (前回 3.6%)、「上昇」53.4% (前回 49.1%) という割合で D I は▲ 51.7 となり、6.2 ポイント低下した。

次 期 予 想：「低下」0.0%、「上昇」43.1% という割合で D I は▲ 43.1 (前回▲ 32.7) となり、前期より原材料・仕入単価の低下を予想している。

#### 製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」11.9% (前回 6.9%)、「低下」3.4% (前回 1.7%) という割合で D I は 8.5 となり、3.3 ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」23.7% (前回 28.1%)、「低下」3.4% (前回 3.5%) という割合で D I は 20.3 となり、4.3 ポイント低下した。

次 期 予 想：「上昇」11.9%、「低下」6.8% という割合で D I は 5.1 (前回 12.3) となり、前期より製品販売価格の低下を予想している。

#### 資金繰り (D I = 好転－悪化)

前 期 比：「好転」3.3% (前回 6.8%)、「悪化」16.7% (前回 15.3%) という割合で D I は▲ 13.4 となり、4.9 ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」8.3% (前回 12.1%)、「悪化」16.7% (前回 17.2%) という割合で D I は▲ 8.4 となり、3.3 ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」1.7%、「悪化」16.7% という割合で D I は▲ 15.0 (前回▲ 8.8) となり、前期より資金繰りの悪化を予想している。

#### 所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前 期 比：「増加」13.3% (前回 18.6%)、「減少」13.3% (前回 15.3%) という割合で D I は 0.0 となり、3.3 ポイント減少した。

前年同期比：「増加」15.0% (前回 17.2%)、「減少」13.3% (前回 17.2%) という割合で D I は 1.7 となり 1.7 ポイント増加した。

次 期 予 想：「増加」11.7%、「減少」8.3% という割合で D I は 3.4 (前回▲ 8.6) となり前期より労働時間の増加を予想している。

#### 収 益 率 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」10.0% (前回 13.8%)、「低下」20.0% (前回 20.7%) という割合で D I は▲ 10.0 となり、3.1 ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」11.7% (前回 28.1%)、「低下」28.3% (前回 22.8%) という割合で D I は▲ 16.6 となり、21.9 ポイント低下した。

次 期 予 想：「上昇」6.7%、「低下」26.7% という割合で D I は▲ 20.0 (前回▲ 12.5) となり、前期より収益率の低下を予想している。

## 経営上の問題点（複数回答）

1位	人材不足（技術者等質的なもの）	（→ 50.0%）
2位	原材料・仕入品単価の上昇	（→ 50.0%）
3位	受注の減少	（→ 35.0%）
4位	労働力不足（量的なもの）	（→ 30.0%）
5位	技術力の不足	（→ 23.3%）
6位	納期の短縮	（↑ 20.0%）
7位	同業他社との競争激化	（↓ 13.3%）
8位	為替相場の変動	（↑ 6.7%）
9位	製品販売価格の低下	（↑ 5.0%）
10位	金融難	（↓ 5.0%）
11位	取引先の海外シフト化	（↓ 3.3%）
11位	人員過剰	（→ 0.0%）

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし  
「↓」 前回の順位から下降

## 業種別自社業況判断／食品

前期比：「**好転**」 25.0%（前回 20.0%）、「**悪化**」 0.0%（前回 0.0%）という割合で  
D Iは 25.0 となり、5.0 ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」 25.0%（前回 20.0%）、「**悪化**」 0.0%（前回 20.0%）という割合で  
D Iは 25.0 となり、25.0 ポイント好転した。

次期予想：「**好転**」 0.0%、「**悪化**」 25.0%という割合でD Iは▲ 25.0(前回 0.0)となり  
前期より悪化を予想している。

## 業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「**好転**」 12.5%（前回 21.4%）、「**悪化**」 12.5%（前回 28.6%）という割合で  
D Iは 0.0 となり 14.3 ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」 25.0%（前回 28.6%）、「**悪化**」 25.0%（前回 28.6%）という割合で  
D Iは 0.0 となり、前回と変わらない。

次期予想：「**好転**」 6.3%、「**悪化**」 25.0%という割合でD Iは▲ 18.7(前回▲ 21.4)となり、  
前期より好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「**好転**」 0.0%（前回 21.4%）、「**悪化**」 21.4%（前回 14.3%）という割合で  
D Iは▲ 21.4 となり、14.2 ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」 14.3%（前回 28.6%）、「**悪化**」 14.3%（前回 14.3%）という割合で  
D Iは 0.0 となり、14.3 ポイント悪化した。

次期予想：「**好転**」 14.3%、「**悪化**」 14.3%という割合でD Iは 0.0(前回▲ 21.5)となり、  
前期より好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「好転」40.0%（前回33.3%）、「悪化」20.0%（前回16.7%）という割合でDIは20.0となり、3.3ポイント好転した。

前年同期比：「好転」50.0%（前回36.4%）、「悪化」20.0%（前回27.3%）という割合でDIは30.0となり、20.9ポイント好転した。

次期予想：「好転」10.0%、「悪化」30.0%という割合でDIは▲20.0（前回▲9.1）となり、前期より悪化と予想している。

## 業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「好転」40.0%（前回20.0%）、「悪化」40.0%（前回40.0%）という割合でDIは0.0となり、20.0ポイント好転した。

前年同期比：「好転」0.0%（前回20.0%）、「悪化」40.0%（前回20.0%）という割合でDIは▲40.0となり、40.0ポイント大幅に悪化した。

次期予想：「好転」20.0%、「悪化」20.0%という割合でDIは0.0（前回▲20.0）となり、前期より好転を予想している。

Q10 日銀松本支店が10月1日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数は（DI）は、前回調査（7月）と比較して、1ポイントマイナスとなりました。製造業は、マイナス9ポイントと横ばい、非製造業は、プラス13ポイントと2ポイント悪化しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」8.3%、「今はないが、今後好転が見込まれる」8.3%、「変わらない」55.0%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」20.0%、「悪化している」8.3%。

Q11 2026年度に向けた採用の計画、希望はありますか。ある場合、現時点での採用状況を教えてください。（新卒、中途含む）

A 「概ね予定通り進んでいる」16.7%、「応募者はいるが期待する人材が見つからない。」10.0%「応募者が少なく採用に繋がらない。」30.0%、「採用を予定していない。」40.0%、「その他」1.7%（内訳：欠員が出たときに募集する）。

Q12 外国の方を雇用されていますか。雇用されている場合、現在就業されている外国の方の人数を教えてください。

A 「雇用していない」60.0%、「雇用したいが現時点で就業者はいない。」1.7%、「1～10人」28.3%、「10人以上」5.0%。

Q13 外国の方を採用されている場合、課題となる点がありましたら教えてください。

A 「コミュニケーションの不足」25.0%、「お互いの文化に対する理解」6.7%、「技術不足」6.7%、「その他」5.0%（内訳：数年で帰国してしまう、外国人側の問題だけでなく、受け入れる日本人側のグローバル能力の向上に課題スポットを充てるべき）

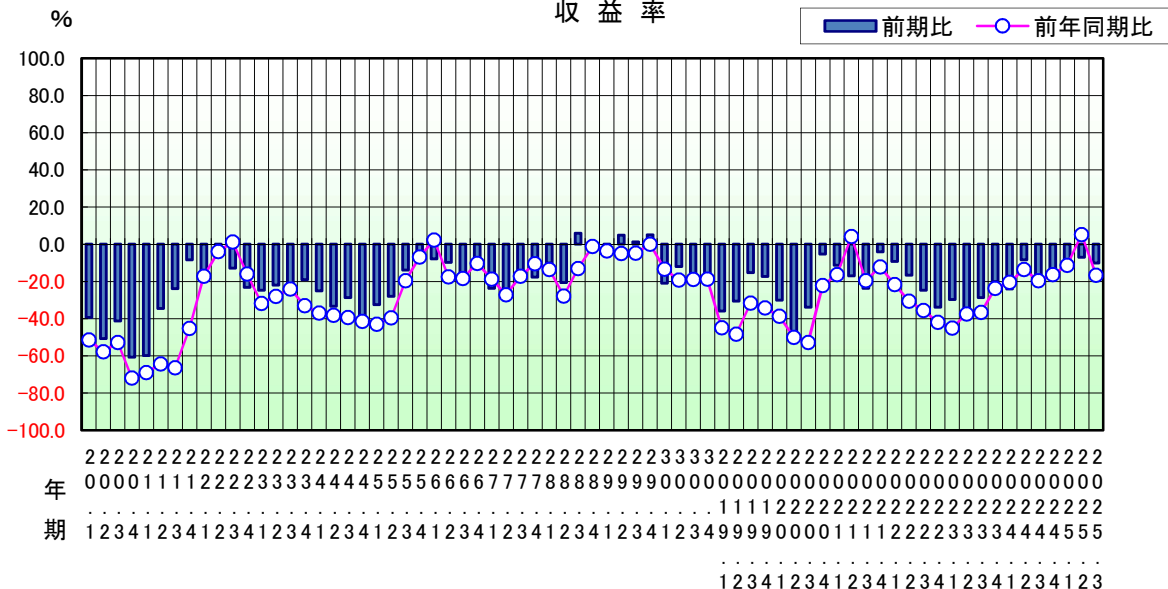
Q14 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「雇用を増やしたいが近隣の駐車場確保（土地取得）が難しく、バスは須坂屋代線の本数が少なく物理的に増やせない状況が続いている。」  
「新規案件の見積もり依頼が増えてきているが実際に決まる案件がほとんどなく、見積りに時間を費やしているだけで売上につながらず困っている。」  
「厳しい状況が続いています。やれることをしっかりやって、仕事ができるのを待つのみです。」  
「同業の廃業等により転注があり人手がかかる仕事が増え人手不足である。」  
「第3期も第2期同様に設備の故障修繕費の増大に資金がかかっております。」  
「受注が不安定、見守るのみ。」  
「トランプ関税の影響で先々の不透明感が強い状況で心配である。」  
「仕入や賃金の上昇が先行し利益確保が難しい。値上げは認められるが、その分生産量は減っている。」  
「パートさんが多く週20時間、103万円の壁など問題を抱えております。最近では会社の指示ではなく旦那さんに言われたなど自分で時間調整をする始末、大変困っております。国もそういう状況を分かってほしい。」  
「ベトナム現地法人から技能実習生を受け入れているが、円安により収入面の魅力が失われている為、希望者が大幅に減少しているため今後の現地への技術・技能の移転に不安がある。」  
「期待する人材確保が進まず、採用施策そのものを見直している。」  
「昨年より売り上げは減少。10月から材料費の値上げ率、個数多く、厳しい状況もセット品販売で利益確保を検証中。」  
「物価高（原材料・仕入品含む）に加え、ここのところは受注も減少しており、資金繰りが悪化した。今後の製造業の盛り上がり期待して、受注が増えてくれるのを強く望みたい。」

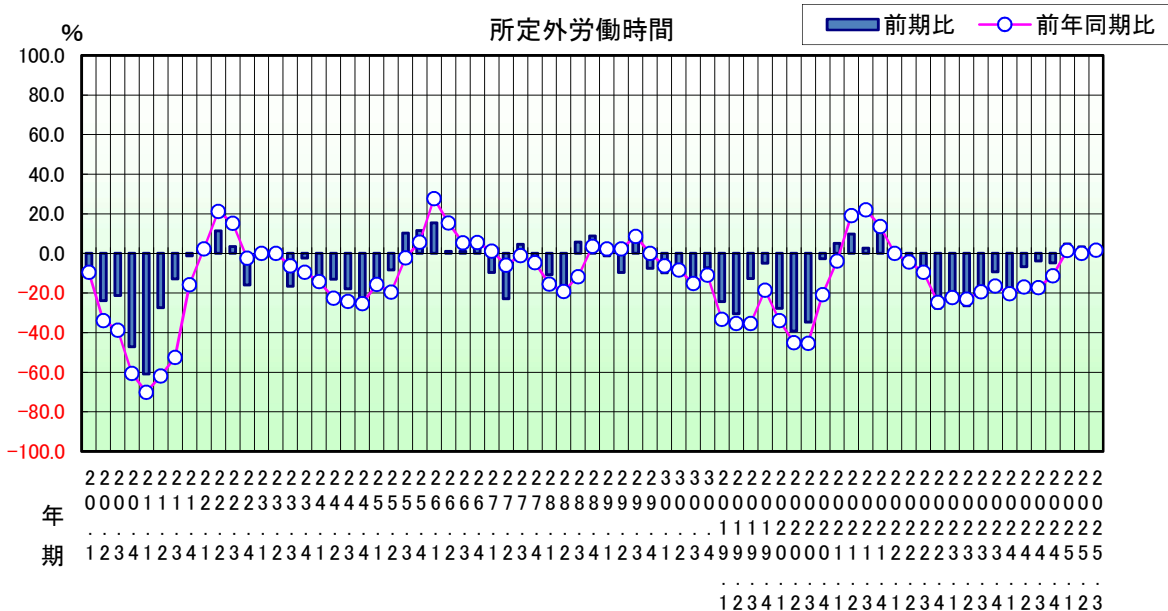




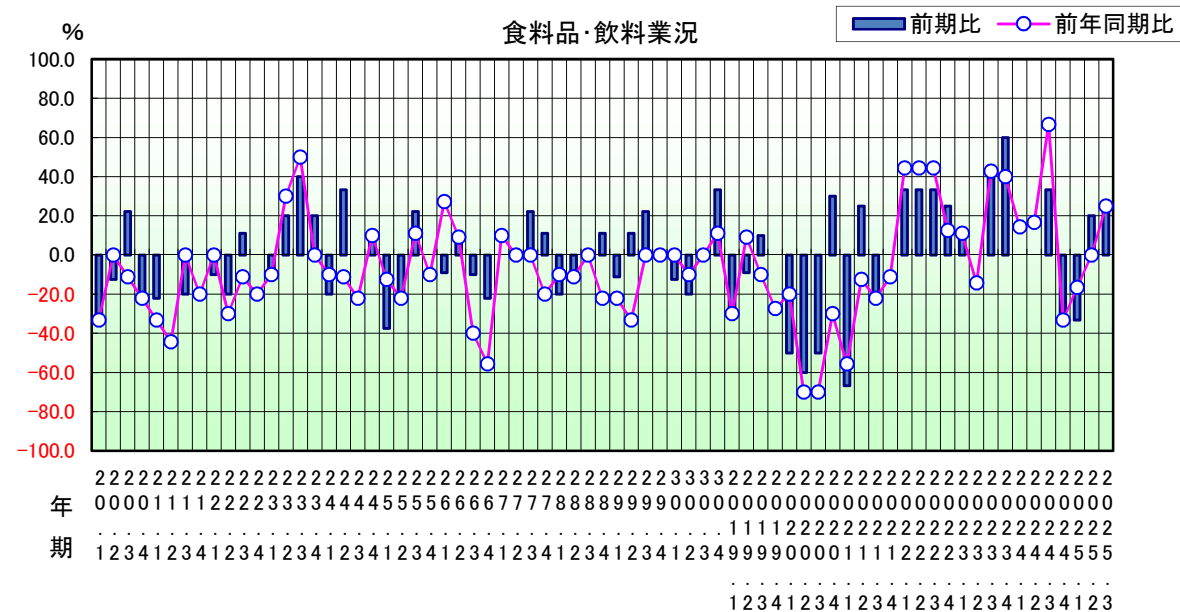
### 収 益 率



### 所定外労働時間



### 食料品・飲料業況





## 【企業動向調査（製造業）概況】

2025年10月～12月期の企業動向調査（市内製造業96社）を行った結果、業況判断指数D Iは22.0ポイントとなりました。

前期調査結果（2025年7月～9月：3.4ポイント）と比較して18.6ポイント好転しました。

その他経営上の問題については、「原価上昇や賃金上昇などによる経費高騰が、販売価格の転嫁に追いつかなくなっている」、「採用が困難になっている」「高卒新卒人材に特化した支援制度の必要性」などの意見がありました。

### 1 業種別の業況判断前期比D I

業種	前期比D I	前期との差
食品	0.0	▲ 25.0
金属	6.7	6.7
一般機械	30.8	52.2
電気機械	22.2	2.2
木材家具	20.0	20.0
その他業種	45.4	27.2

### 2 業種別の次期予想D I（2026年1月～3月）

次期予想は6.9ポイントで、今期調査結果(22.0)より、15.1ポイント悪化する予想となりました。

業種	次期予想D I	今期との差
食品	0.0	0.0
金属	13.3	6.6
一般機械	▲ 7.7	▲ 38.5
電気機械	37.5	15.3
木材家具	▲ 20.0	▲ 40.0
その他業種	9.1	▲ 36.3

### 3 経営上の主な問題点

	問題点	割合
1位	人材不足（技術者等質的なもの）	57.6%
1位	原材料・仕入品単価の上昇	57.6%
3位	労働力不足（量的なもの）	35.6%
4位	受注の減少	33.9%
5位	納期の短縮	20.3%

# 企 業 動 向 調 査

## 【 2025 年 10 月～12 月期 <4 期> 】

### 【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施している。

今回は2025年10月～12月期<4期>の業況について調査した。

### 【調査実施要領】

実施時期 2025年1月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業96社

回答企業数 59社（回答率61.5%）

### 【調査結果】

自社業況判断（D I = 好転 - 悪化）

	好転	悪化	D I	比較
前期比	37.3% (前期 21.7%)	15.3% (前期 18.3%)	22.0	前期より 18.6 ポイント 好転
前年同期比	36.2% (前期 26.7%)	19.0% (前期 20.0%)	17.2	前期より 10.5 ポイント 好転
次期予想	19.0%	12.1%	6.9	今期より 15.1 ポイント 悪化と予想

受注引合（D I = 増加 - 減少）

	増加	減少	D I	比較
前期比	37.3% (前期 16.7%)	18.6% (前期 21.7%)	18.7	前期より 23.7 ポイント 増加
前年同期比	36.2% (前期 20.0%)	17.2% (前期 28.3%)	19.0	前期より 27.3 ポイント 増加
次期予想	20.7%	15.5%	5.2	今期より 13.5 ポイント 減少と予想

生産量（D I = 増加 - 減少）

	増加	減少	D I	比較
前期比	32.2% (前期 18.3%)	15.3% (前期 18.3%)	16.9	前期より 16.9 ポイント 増加
前年同期比	31.0% (前期 21.7%)	17.2% (前期 23.3%)	13.8	前期より 15.5 ポイント 増加
次期予想	24.1%	12.1%	12.0	今期より 4.9 ポイント 減少と予想

原材料・仕入品単価 (D I = 低下 - 上昇)

	低下	上昇	D I	比較
前期比	0.0% (前期 0.0%)	52.5% (前期 32.8%)	▲ 52.5	前期より 19.7 ポイント 悪化
前年同期比	3.4% (前期 1.7%)	60.3% (前期 53.4%)	▲ 56.9	前期より 5.2 ポイント 悪化
次期予想	0.0%	43.1%	▲ 43.1	今期より 9.4 ポイント 好転と予想

製品販売価格 (D I = 上昇 - 低下)

	上昇	低下	D I	比較
前期比	25.4% (前期 11.9%)	1.7% (前期 3.4%)	23.7	前期より 15.2 ポイント 上昇
前年同期比	41.4% (前期 23.7%)	1.7% (前期 3.4%)	39.7	前期より 19.4 ポイント 上昇
次期予想	24.1%	1.7%	22.4	今期より 1.3 ポイント 低下と予想

資金繰り (D I = 好転 - 悪化)

	好転	悪化	D I	比較
前期比	6.8% (前期 3.3%)	15.3% (前期 16.7%)	▲ 8.5	前期より 4.9 ポイント 好転
前年同期比	10.3% (前期 8.3%)	19.0% (前期 16.7%)	▲ 8.7	前期より 0.3 ポイント 悪化
次期予想	8.6%	12.1%	▲ 3.5	今期より 5.0 ポイント 好転と予想

所定外労働時間 (D I = 増加 - 減少)

	増加	減少	D I	比較
前期比	16.9% (前期 13.3%)	8.5% (前期 13.3%)	8.4	前期より 8.4 ポイント 増加
前年同期比	19.0% (前期 15.0%)	12.1% (前期 13.3%)	6.9	前期より 5.2 ポイント 増加
次期予想	13.8%	10.3%	3.5	今期より 4.9 ポイント 減少と予想

収 益 率 (D I = 上昇 - 低下)

	上昇	低下	D I	比較
前期比	15.3% (前期 10.0%)	22.0% (前期 20.0%)	▲ 6.7	前期より 3.3 ポイント 上昇
前年同期比	10.3% (前期 11.7%)	27.6% (前期 28.3%)	▲ 17.3	前期より 0.7 ポイント 低下
次期予想	8.6%	19.0%	▲ 10.4	今期より 3.7 ポイント 低下と予想

経営上の問題点 (複数回答)

	問題点	割合	前回比較
1位	人材不足 (技術者等質的なもの)	57.6%	→
1位	原材料・仕入品単価の上昇	57.6%	→
3位	労働力不足 (量的なもの)	35.6%	↑
4位	受注の減少	33.9%	↓
5位	納期の短縮	20.3%	↑
6位	同業他社との競争激化	16.9%	↑
7位	技術力の不足	10.2%	↓
8位	製品販売価格の低下	6.8%	↑
8位	為替相場の変動	6.8%	→
10位	金融難	3.4%	→
11位	取引先の海外シフト化	1.7%	→
12位	人員過剰	0.0%	→

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし  
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断 / 食 品

	好転	悪化	D I	比較
前期比	16.7% (前期 25.0%)	16.7% (前期 0.0%)	0.0	前期より 25.0 ポイント 悪化
前年同期比	16.7% (前期 25.0%)	16.7% (前期 0.0%)	0.0	前期より 25.0 ポイント 悪化
次期予想	16.7%	16.7%	0.0	今期より 0.0 ポイント 好転と予想

## 業種別自社業況判断／金属機械

	好転	悪化	D I	比較
前期比	26.7% (前期 12.5%)	20.0% (前期 12.5%)	6.7	前期より 6.7 ポイント 好転
前年同期比	40.0% (前期 25.0%)	20.0% (前期 25.0%)	20.0	前期より 20.0 ポイント 好転
次期予想	13.3%	0.0%	13.3	今期より 6.6 ポイント 好転と予想

## 業種別自社業況判断／一般機械

	好転	悪化	D I	比較
前期比	38.5% (前期 0.0%)	7.7% (前期 21.4%)	30.8	前期より 52.2 ポイント 好転
前年同期比	23.1% (前期 14.3%)	30.8% (前期 14.3%)	▲ 7.7	前期より 7.7 ポイント 悪化
次期予想	7.7%	15.4%	▲ 7.7	今期より 38.5 ポイント 悪化と予想

## 業種別自社業況判断／電気機械

	好転	悪化	D I	比較
前期比	44.4% (前期 40.0%)	22.2% (前期 20.0%)	22.2	前期より 2.2 ポイント 好転
前年同期比	62.5% (前期 50.0%)	25.0% (前期 20.0%)	37.5	前期より 7.5 ポイント 好転
次期予想	37.5%	0.0%	37.5	今期より 15.3 ポイント 好転と予想

## 業種別自社業況判断／木材家具

	好転	悪化	D I	比較
前期比	40.0% (前期 40.0%)	20.0% (前期 40.0%)	20.0	前期より 20.0 ポイント 好転
前年同期比	20.0% (前期 0.0%)	20.0% (前期 40.0%)	0.0	前期より 40.0 ポイント 好転
次期予想	20.0%	40.0%	▲ 20.0	今期より 40.0 ポイント 悪化と予想

Q10 日銀松本支店が12月15日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(9月)と比較して、3ポイントプラスとなりました。製造業は、マイナス3ポイントと6ポイント好転、非製造業は、プラス15ポイントと2ポイント好転しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

好転している	11.9%
今はないが、今後好転が見込まれる	20.3%
変わらない	49.2%
今はないが、今後悪化が見込まれる	10.2%
悪化している	8.5%

※四捨五入の関係で、合計が100にならない場合があります。

Q11 市が実施している支援事業で、ご存知のものをご回答ください。(複数選択可)

用地取得、建物等設置、空き工場等の活用など企業立地に関する補助金	23.7%
公害防止施設設置、工業系用途地域への移転などに関する補助金	8.5%
寮、福利厚生施設設置などに関する補助金	6.8%
先端設備導入に係る固定資産税の軽減措置	20.3%
企業間の共同研究に関する補助金	13.6%
研修参加、社内研修の開催に関する補助金	15.3%
弁護士など専門家の派遣	3.4%
製品の安全性の検証等に関する補助金	8.5%
特許申請、新技術、新製品の開発等に関する補助金	10.2%
展示会等への出展に関する補助金	18.6%
企業紹介や技術伝承を目的とした映像作成に関する補助金	3.4%
農商工観連携による事業創出への補助金、貸付金	5.1%
「産業フェア in 信州」等における共同出展	25.4%
企業のDX推進やデジタル人材育成に関する支援	20.3%
障がい者雇用の奨励金	15.3%
中小企業退職金共済加入の奨励金	20.3%
障がい者作業施設等に関する補助金	6.8%
奨学金を返済する従業員の手当てに関する補助金	8.5%
勤労者互助会の運営	15.3%

Q12 特に支援を受けたいものがあれば教えてください。(複数選択可)

新工場等の設置に関する補助金	0.0%
販路開拓（出展等）に関する補助金	13.6%
産業フェア等への他企業との共同出展（市及び商工会議所の企画・とりまとめ）	10.2%
研修に係る費用等人材育成に関する支援	18.6%
製品開発や特許取得に関する支援	10.2%
DX 推進やデジタル人材育成に関する支援	11.9%
福利厚生や障がい者雇用に関する支援	10.2%
その他（内訳：物価や賃金上昇などを補填する補助金、海外子会社向けなどに使える補助金）	3.4%

Q14 その他経営上の問題についてご記入ください。

- 工場設置条件の見直しと緩和
- 原価上昇や賃金上昇などによる経費高騰が、販売価格の転嫁に追いつかなくなっている。価格転嫁も現状はしにくい傾向にあり、価格を上げれば他社に発注が流れる(価格の安い業者へ移る)「価格競争」へとシフトしている顧客が増えてきている感じがあります。今後の価格転嫁が望めず経費の上昇が止まらないのであれば、中小企業の未来は暗いと考えます。政府等は中小企業の未来を明るくするような政策を望みます
- 人が足りません。人材確保の観点から、下記ご提案申し上げます。現在実施されている移住支援も素晴らしいですが、更なるインパクトを持たせるため、「高卒新卒人材に特化した支援制度」はダメでしょうか。具体的には、県外から須坂市内の企業へ就職を希望する高卒者を対象に、家賃の大部分を市と企業が共同で負担し、無償または格安な価格で住居を提供できないでしょうか。対象を「高卒」に限定することで、若返りを図る須坂市の姿勢を全国に発信できるのではないかと考えています。就職フェアにおいても、「高校生、生まれ！須坂市は高卒の一人暮らしを応援します！」と打ち出し他自治体との差別化を図りマスコミ取材が来るなど話題性も十分に期待できていると感じています。須坂市役所にもマスコミが押しかけ担当の皆様が“全国デビュー”される姿が想像できます。ただ窓口は少しイメージを……。若い人材が集まり、まちと企業が活気づく——一人暮らしを始める町すぎか！何卒よろしくお願ひ申し上げます。人を！とにかく人を！
- 工場移転をしたいが資金が無い
- 便乗値上げもあるのではないかと？仕入れ価格が上昇、人件費固定費も上昇傾向、賃上げが必須であり、今後の売り上げ目標を引き上げ、コスト削減に挑戦していくが、厳しい状況が続くものと推測される
- 製品の定価を上げたにもかかわらず、仕入れ単価は値上がりが続く。新卒者の採用が厳しい状況。応募が少ない
- 人材不足(労働力、技術力)
- 採用が困難になっている。特に新入社員採用については、企業説明会を主とする方法での採用活動は効果が見込みにくいと感じている。進学希望の高校生が減少し、専門学校生獲得の競争が激しくなったと感じます。
- 原材料価格の高騰が止まらず、製品価格転嫁も進んでいない。価格を転嫁すると客離れにつながるレベルに達しているような気がして、踏み込めない





